

## 初の「専大ベンチャービジネスコンテスト」栄冠は南・木戸口組に

第1回専大ベンチャービジネスコンテストのプレゼンテーションが11月3日、生田キャンパスで行われた。参加36組中、一次選考を通過した8組による熱のこもったプレゼンが展開され、ベンチャービジネスの第一線で活躍するゲスト審査員と6人の本学教員からの厳しい質問が4時間にわたって繰り広げられた結果、最優秀の「鳳賞」には経営学部3年次の南周作さんと木戸口学さんの「中国ビジネス—21世紀 中国！」が選ばれた。



最優秀「鳳賞」に輝いた南周作くん(右)と木戸口学くん(左)



ゲスト審査員はベンチャー業界の第一線で活躍する著名な方々

今回はネットワーク情報学部2年次の情報ストラテジーコースの学生も、夏期休暇中の課題として取り組み、そのうち3人がプレゼンに進んだ。経営知識が不足して不安だったと話していた佐々木一実さんには厳しいコメントがあったが「女子学生らしい発想で、ビジネスについてさらに学んで視点を変えれば実現可能かもしれない」という意見もあった。岡野正和くんには「1年次生のプランとしては評価できる。一度ニーズをリサーチしてみてもは」とのアドバイスが送られた。

「鳳賞」の南・木戸口組は、留学生の約6割が中国からという点と、活発化する日本企業の中国進出に焦点を当て、キャンパス内で展開する中国語会話ビジネス・中国語会話家庭教師派遣サービスなどを考えた。中国の5つの大学でマーケティングリサーチを行い、すでに試験的に語学教室を開いているという現実性が評価されたようだ。見目洋子商学部助教授は「語学学校と差別化するために、5年後まで見据えたプランニングを」とコメントした。

成績発表兼懇親会では各審査員が講評を述べ、日本のベンチャー業界を30年間牽引してきた平尾光司経済学部教授が「世界に飛躍するベンチャースピリットを持ち、アイデアを実現させてほしい」と激励した。

■ゲスト審査員(順不同・敬称略)＝日本ベンチャー協会・天井次男、スマック経営システム代表・石上芳男、NCネットワーク社長・内原康雄、野村リサーチアンドアドバイザー・小林広、日本企業家協会・山田長満 / オブザーバー＝川崎市産業振興財団、円卓会議

### ■鳳賞受賞者の話

木戸口くん＝プランで終わるのでなく「絶対に実現させる」という強い意志が認められたと思います。

南くん＝大学の空き教室利用でネイティブ・スピーカーによる質の高い会話教室の実現に取り組みます。学生インキュベーション団体「START UPS FORUM」を主催し、学生と企業家による講演・交流会なども企画。実社会から学ぶ活動を通じ学生のモチベーションを高め、専大に「ベンチャーの風」を起こしていきたいです。

〔11月15日/ニュース専修5面〕

## 経営学特殊講義 パソナ提供講座 全国紙でも紹介



経営学部で今年度から3本の企業提供講座がスタートした。半期は本学の教員が講義を行い、あとの半期を各企業の実務家に講演をお願いしている。そのうち(株)パソナ提供の経営学特殊講義「キャリアと人材ビジネス」の様子を紹介しよう。

10月2日は「キャリア開発～自分を知る」というテーマで同社営業企画室・須東朋広氏が行動特性分析(コンピテンシー)とFFS分析の実習を行いながら、講義を進めた。

コンピテンシーとは優秀な人の行動特性をまとめたもので、パソナが人材派遣の現場で活用しているものを用いた。FFSは米国国防機関で研究された5つの資質の組み合わせで人の思考・行動を説明しようとするもので同質の人を組み合わせたり、補完的に組み合わせることによって仕事やプロジェクトの成果を高めるという考え方である。実習後「会社の考えが分かり、興味深い」「就職活動前に行動分析が出来て参考になった」と3年次の男子学生は話していた。

担当の廣石忠司教授は「企業の方から現場の息吹を伝えていただき、学生達にいい刺激となっている。就職指導委員の立場としては生き方やキャリアを考えるチャンスになってほしい。4年次生からは『もっと早くこういった話を聞きたかった』という声もあり、今後とも充実させていきたい」と提供講座の効果を語っている。(同日の講義の様子は10月9日付読売新聞「家庭とくらし」欄に紹介された。(写真・須東氏の講演)

[11月15日/ニュース専修5面]